

Q. 周術期って何ですか？

A. 周術期とは、手術が決定した外来から入院、麻酔・手術、術後回復、退院・社会復帰までの、患者さんの術中だけでなく手術前後を含めた一連の期間のことです。日本麻酔科学会は、安全な手術の実施に向けて、麻酔科医を中心としたチームによる「周術期管理チーム(perioperative management team: PMT)の構想」を 2007 年から提唱しています。周術期外来では、手術が決定した時点から診療科医師と多職種(麻酔科医・薬剤師・歯科医・臨床工学技士・理学療法士・管理栄養士・手術部看護師・病棟看護師など)が計画的に介入することで、術前休止薬もれ・検査不備による手術の延期や、術後痛対策・早期離床・リハビリによる術後合併症減少などの役割が期待されています。

Q. 医療センターでは、どのような取り組みをしていますか？

A. 2017 年 12 月から食道手術の患者さんを対象とし、入院当日に集中治療部に設けた診察室で、麻酔科医と周術期管理チーム看護師(手術部看護師)による面談と手術オリエンテーションを行い、その後集中ケア認定看護師による術後ケアについての説明(呼吸訓練・離床訓練・疼痛対策)と集中治療部の見学案内を実施しています。通常の予定手術では、麻酔科医や手術部看護師が患者さんに関わるのは、手術前日となりますが、周術期外来では手術決定後できるだけ早い時期に関わることを目指しています。

Q. 具体的に、どんな説明や指導を受けられますか？

A. 喫煙、呼吸器疾患や糖尿病、高血圧、脳心臓血管病変などの基礎疾患による手術・麻酔での合併症とその予防方法について、パンフレットを使用し患者さん個々の状況に合わせたわかりやすい説明を行っています。必要と判断した場合、事前に手術体位シミュレーションによる末梢神経障害予防や皮膚トラブル予防のためのパッチテストを実施し、安全性を担保できる体制で対応しています。また、術後の疼痛を緩和する方法やせん妄(一時的な精神障害)・静脈血栓塞栓症(エコノミー症候群)への対策について、具体的にイメージしやすいパンフレットを用いてオリエンテーションしています。



Q. 術後にはどんなことが行われるのですか？

A. 術後の呼吸管理・リハビリテーションに関しては、集中ケア認定看護師を中心とした「呼吸ケアチーム」が大きな役割を担っています。呼吸管理に関しては、深呼吸や咳嗽の指導を行いながら排痰援助を行い術後肺合併症の予防に努めています。リハビリテーションに関しては、積極的な疼痛コントロールを行った上で、リハビリテーション科のスタッフと情報共有を行いながら多職種で協働し早期から実施できるように取り組んでいます。